

多発性骨転移を伴う去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)に対する

温熱化学療法の取り組み

鶴田病院泌尿器科&温熱療法室 川畑幸嗣

【目的】

CRPC 多発骨転移に対する低用量ドセタキセル(DOC 40 or 60mg/body/4W)とデノスマブ(Dmab 120mg/4W)の 2W 毎交互療法に温熱療法(HT/W)を併用した治療法を紹介。LHRH アゴニストは継続。

【症例】

CRPC 多発骨転移 3 例(GS9, cT3aN1M1b, stageD2)。【方法】上記泌尿器科的治療に骨盤部 HT/W 腹臥位 45 分間を併用。統合医療的補助療法(漢方等)も併用した。

【結果】

2 例で PSA 奏功あり。1 例は著名(PSA 931 が 0.039 に低下し継続)で、PS 3 が 3M 後に歩行退院。1 例は低用量カバジタキセル(60~70%)療法まで移行したが、顆粒球減少は Grade 2 に留まり、QOL は良好のままだった。

【考察】

HT による薬剤取り込み量増加により低用量 DOC で有効な治療効果が得られ、QOL が維持できた。

【結語】

CRPC 多発骨転移への低用量 DOC &HT 併用療法の有用性と安全性が示唆された。